

債権管理実務研究会 特別セミナーのご案内

この債権管理・回収の最新動向から考える与信管理の現在地 ～実務の基本と変化に対応する管理体制とは～

- ▶ 債権管理・与信管理は、企業のキャッシュフローを支える重要な業務領域であり、経営の健全性に直結する機能です。しかし、企業間取引の複雑化や取引先倒産の増加、経済環境の不透明化が進むなか、従来の“経験と勘”に基づく管理手法ではリスクを十分にコントロールできない局面も増えています。
- ▶ 本セミナーでは、債権管理・与信管理の「基本」をあらためて確認するとともに、近年の実務動向や制度改正、さらにDXやAIといった技術革新が与える影響を踏まえ、今、企業がとるべき実践的な対応策について考察します。
- ▶ 講師には、書籍『これから債権管理：AI・DX起点の新デザイン』（金融財政事情研究会）の執筆者を迎える、与信判断・モニタリング・延滞債権対応といった各プロセスの基本から、実務上見落とされがちなポイント、AIやデジタルツールを取り入れた改善事例まで幅広く解説いただきます。
- ▶ 特に中堅・中小企業を中心とした現場では、専任体制をとれず「最低限の管理にとどまっている」「ブラックボックス化している」といった課題も散見されます。本セミナーでは、こうした課題にどう向き合うか、どのように業務を平準化・可視化し、将来的なリスクを抑制していくかという観点からも具体的なヒントを提示します。

主要講義項目 (詳細な項目はHPをご確認ください)

1. 現状の倒産状況
 2. 与信管理の基本
 - (1) 信用調査
 - (2) 与信枠の設定
 - (3) 契約書の内容審査（期限の利益喪失条項、不安の抗弁権その他）
 - (4) 担保の設定（物的担保、人的担保）
 - (5) 期中審査
 3. 最新動向
 - (1) 取引信用保険、保証ファクタリング
- 【Column 債権管理・回収は全社の課題—部門間の連携を大切に】
- 【Column 企業間取引の決済方法の多様化—BSPS、BNPL】
- 【Column 手形・小切手機能の電子化】
- 【Column デジタル技術の活用】
 - a 電子契約・電子署名
 - b 補助のDX化
 - c 生成AI、AIエージェントなどの利用
- 【Column 新しい担保の取り方（暗号資産など）】
- 【Column 譲渡担保法、企業価値担保権】

※進行により講義項目は前後する場合があります。

講 師

近岡裕輔 弁護士（片岡総合法律事務所）

2019年12月弁護士登録。慶應義塾大学法務研究科（法科大学院）助教（現職）。証券化、ファンドを中心としたホールセール向け金融のほか、ローン、リース、クレジットなどのリテール向け金融を幅広く取り扱っています。そのほか、個人情報の取扱いなど企業法務に不可欠な分野や、一般民事事件、刑事事件にも中心的に取り組んでいます。

開催日時 11月12日(水) 10時～12時

会 場 (株)商事法務 会議室(東京都中央区日本橋3-6-2日本橋フロント3階)

視聴期間 12月10日(水)～2026年1月26日(月)(申込期限:11月11日(火)12時)

受講料 【法人申込】26,500円(税込)/1社(同一法人内に限り複数名受講可能)

【個人申込】13,200円(税込)/1名

WEB申込



詳細はホームページをご確認ください。